



この取材のために、自前の制服を用意し、着用してくれた

SCHOOL INTERVIEW!
登校インタビュー
漫画家
うかみさん
Ukami
浜松湖南高校卒



好きなことより、嫌いなことを見つけよう。

漫画「ガヴリールドロップアウト」がアニメ化され、男子高校生を中心に人気上昇中の漫画家、うかみさん。作品中には浜松周辺の風景が数多く登場する。浜松に住みながら漫画を描くうかみさんに、自分の高校時代や、地元で仕事をするということについて話を聞いた。

それまではダラけていたのに
漫画の世界に入ったら
性格も考え方も180度変わった。

――母校に来たのは何年ぶりですか。

卒業以来かなあ。実は、ずっと前から来たとは思っていたんです。僕は地元の風景を撮影して、それを基に漫画の背景を描くことが多いので、でも、不真面目な生徒だったから、なかなか敷居が高くて(笑)。

――不真面目という？

授業中に席が近くの仲間とトランプをやったり……あ、やっぱりこれはマズいかな。オフレコでお願いします(笑)。とにかく仲間と悪ノリして怒られてばかりいました。部活は入学時にテニス部に入ったんですが、練習があまりにもキツかったので3カ月で退部して、その後は仲間とバンドを組んだ



アニメに登場する浜松周辺のシーン



© 2016 うかみ/KADOKAWA アスキー・メディアワークス/ガヴリールドロップアウト製作委員会

――漫画家を目指したのはいつから？

小学校の卒業文集に「将来の夢は漫画家」と書いてあったので、多分その頃から憧れてはいたんでしょうね。小さい頃から漫画を読んだり、絵を描いたりするのが好きでしたし。

――大学では絵を学んだのですか。

いえ、近畿大学の情報学部に進学して、プログラミングなどを勉強していました。実は、僕は就活時にIT系のベンチャー企業に内定して、4年生の春ごろから大学に通いながら営業マンとして働き始めたんです。でも、マニユ



アル通りのやり方を強要されたり、上司に縛られたりするのがすごく嫌で、1月の内定式の3日後に辞めてしまいました。それで、自分は普通に働けない人間なんだと悟り、お笑いと漫画家のどちらかの道へ進もうと考えて、漫画家を目指すことにしたんです。それからは実家に帰って部屋にこもり、ひたすら漫画の描き方や表現方法を学びました。ずっとダラけた学生生活だったのに、漫画を描き始めてからは生活態度も考え方もガラリと変わりましたね。漫画界は実力の世界ですが、「絶対に何とかなる！」という根拠のない自信に支えられて一心不乱に漫画を描き続け、その半年後に漫画雑誌の新人賞に入選してデビューしました。